

<https://kitamae.uminohi.jp>

海の学校 ワークショップの成果

2021年1月発行

発行 一般社団法人北前船交流拡大機構

協力 北前船日本遺産推進協議会

制作協力 16市町の北前船寄港地のみなさん

ワークショップに参加して下さった16市町の小学生のみなさん

海と日本プロジェクトのみなさんおよび各施設、ボランティアガイドの方々

この事業は日本財団が推進する海と日本プロジェクトの一環として実施しています。

※許可なく転載・複製することを禁じます。



ワークショップの成果

2020

海の学校

日本遺産の誇りでつなぐ
海洋教育連携事業

海洋教育連携事業「海の学校」とは



北前船で日本遺産に認定された48市町の自治体・教育委員会と連携し、全国16エリアで開催された「海の学校」。今年は全国16市町の小学生446人が参加していただきました。海が暮らしにもたらした恩恵を学び、海が育んだ地域それぞれの宝を未来に残していくことを目的に、各地でそれぞれ学んだ地元の海の魅力を最大発信する方法を考え、ふるさと納税で小学生が地域の海に貢献する海洋教育プロジェクトです。「海の学校 2020」のみんなの報告をぜひご覧ください！



【全国みんなが考えた海の商品をみよう！】
各地の海の魅力を商品にした成果はこちらのホームページでも紹介しています。
<https://kitamae.uminohi.jp>

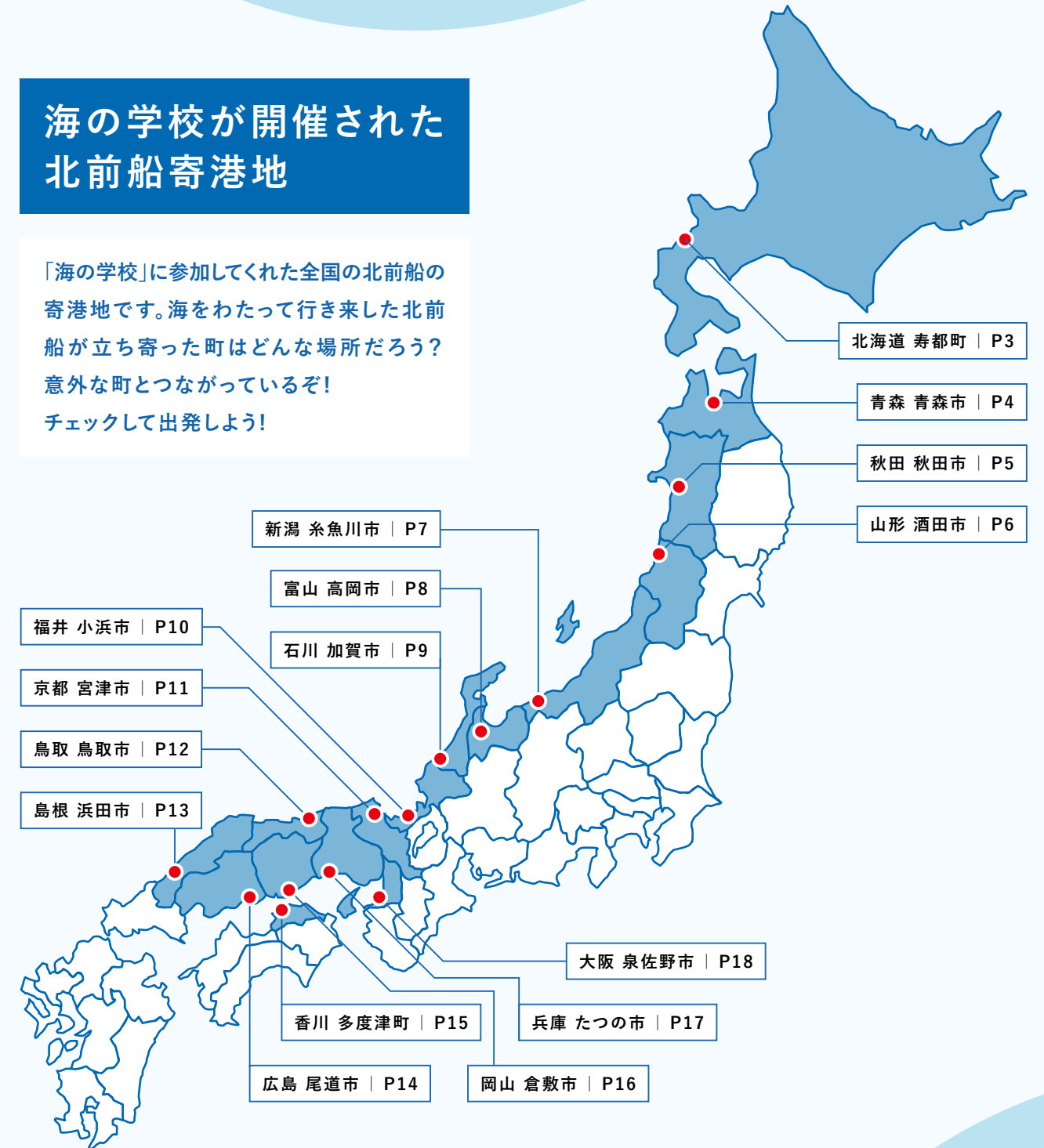
日本財団 「海と日本プロジェクト」とは



海と日本プロジェクトって知っていますか？私たちの周りには海があって遊んだり、海の魚を食べたり、海は私たちの生活を支えています。でも、人間のせいで海が汚れたり、魚が減ったりして海に元気がなくなってきています。海と日本プロジェクトは、みんなに海が困っていることを知ってもらって、みんなで海を助けて、元気な海を未来に残そうとしている日本財団が行っている活動です。

海の学校が開催された北前船寄港地

「海の学校」に参加してくれた全国の北前船の寄港地です。海をわたって行き来した北前船が立ち寄った町はどんな場所だろう？意外な町とつながっているぞ！チェックして出発しよう！



北前船は日本遺産に認定されました

荒波を超えた男たちの夢が訪いた異空間
～北前船寄港地・船主集落～
2020年5月に追加認定されて、48市町になりました。

海が育んだ食

ニシンの豊漁と北前船がもたらした歴史
私たちの海の資源について

ワークショップ実施日:10月6日(火)/10月16日(金)



北海道
寿都町立
寿都小学校
潮路小学校

ワークショップで学んだこと

●地元の海が私たちの暮らしにもたらしたもの/寿都からの積み荷はニシンが全国へ運ばれていた。北海道を代表するニシンの漁場として、全国から人とモノが集まった。見学したカクジュウ佐藤家や橋本家も、町が栄えた時代に建てられたもので、内装や調度品など当時の最高級を集めたものだった。町の発展にはニシンと北前船が大きく貢献したことが分かった。●海の何を学んだか、どう思ったか/ニシンの豊漁と、全国各地から集まった人とモノによって町は大きく発展したが、ある日を境にニシンの群衆は現れなくなった。ニシンの獲れない町からは人がいなくなり衰退していくことに、ニシンがいなくなった理由は色々考えられ原因はひとつではないが、ニシンを含む漁業資源の回復と、海を未来に残すために地域が取り組んでいる活動を知ることができた。今回は、海の森を育てる施肥工場の仕組みや、サケの人工授精などを体験し自分たちの手で海を育てて行くことを学ぶことができた。当時の建物の思い出などを大切に守り、これからも海を守っていく活動をしたかった。●学習テーマに関する新しい発見など/海に肥料をまくことに驚いた。海をきれいにする努力をみんなががんばっているのを知れてよかった。寿都の歴史が今につながっていることを詳しく知れて楽しかった。誰かに何かを伝えることの難しさを知った。家紋や屋号など今でも使われているものにもデザインがあって楽しい。カクジュウ佐藤家の二階から見た海が昔とどう変わったのか知ることができた。海藻をエサにする海の生きものがたくさんいることを知った。

漁の観覧の仕組みなどを見学しました



漁業用の肥料を作る工場を見学したよ



寿都の街と海をみんなにPRしよう



魚の海へ水揚げされる漁獲物だけを使ったオリジナル弁当



魚の加工場見学が楽しかったよ



商品 アイデア

学んだ学習テーマを
全国の人に知ってもらうための

寿都町のふるさと納税額は後志管内ではトップで、道内でも毎年上位にランクインしています。主に海産物やその加工品が人気となっています。今回は食べた後残りの食品開発ではなく、未永く身の回りに寿都を感じてもらえるアイテムを作ろうということになりました。このワークショップで学んだ鮭と北前船がもたらした歴史や、現在、そして未来の寿都の海をみんなでカタチにして全国にPRします。



海が育んだ食

海×北前船×人々のつながり
～未来の海についても考えよう～

ワークショップ実施日:10月18日(日)



青森県
青森市内の小学生

ワークショップで学んだこと

●ただ航海しているのではなく、寄港地で安いと思う品物があれば買い、荷物で高く売れるものがあるところまで売るといって商売しながら北海道へ往復していた買積船と呼ばれていた。●米、木綿といった食料がもたらされた。●船乗りが風待ちの間、宿や料亭で聞いた民謡、「おけさ」、「あいや節」(熊本)、祭(神興→京都)などの芸能や文化が広まった。●当時、北日本と西日本では衣料生産体制に差があり、西日本の古着が北日本では高価な商品だった。●2011年に航海した時は、北前船の建造技術、操船技術の情報発信だけではなく、東日本大震災からの復興支援を目的に募金活動もしていた。●浜辺にはきれいな貝殻があったが、このままプラスチックごみが海に増え続けると大好きなお魚が食べられなくなってしまう、大好きな海で遊べなくなってしまうと思う嫌なので、ごみのポイ捨てをしないなどの行動を心掛けていきたい。●今ある青森のきれいな海や自然を、この先もずっと残していきたい。

講義を一生懸命聞く子どもたち 講師:木村さん



講義を一生懸命聞く子どもたち 講師:横山さん



ビーチコーミング



ハーバリウム作り体験



みんな思いをこめて発表



商品 アイデア

学んだ学習テーマを
全国の人に知ってもらうための

●青森の海をイメージしたハーバリウム ●浜辺で収集した貝殻などを材料の一部として作成したので、青森の海を感じてもらい、実際に青森にきて感じてほしい ●青森だけに限らず、きれいな海を未来に残していくためにも、ゴミのポイ捨てをしない、プラスチックごみを増やさないでリサイクルを進めるなど、一人一人ができることをしていこうというメッセージを込めて



海が育んだ食

海がもたらした文化

ワークショップ実施日:11月14日(土)/11月28日(土)



秋田県 秋田県内の小学生

ワークショップで学んだこと

●地元の海が私たちの暮らしにもたらしたもの/北前船を通じて主に塩、砂糖、衣類、鉄、穀物類、海産物が秋田には運び込まれた。
●日本遺産に認定された地元の海の恩恵など/民謡が北前船を通して伝わり、今でも秋田の文化として根強く残っている。
●海の何を学んだか。どう思ったか。/秋田港を北前船が通ることによって街が繁栄した。北前船を通して秋田の人々の食生活を豊かにしていた。
●学習テーマについての新しい発見など/北前船という船があったことを知った。
●全国に発信できる宝ポイント/秋田を代表して米が全国に運ばれた。



商品アイデア

学んだ学習テーマを全国の人に知ってもらうための

- 秋田産の魚を使った酒粕漬けを海プロオリジナルパッケージにして全国へ!
- 秋田の海について学んだことを全国の人にも伝えたい。
- 地元の海のすばらしさをPRしたい。
- 北前船を知らない人にも北前船を通して全国と繋がった昔の文化を知ってもらいたい。

学校の新聞 秋田版

秋田県土崎の日本遺産

北前船が残してくれたもの(文)

江戸時代北前船は大阪から北へ道まで二年かけて荷物と人で海を走る船でした。

各地を回り安く仕入れ高値で売って事により儲けを華やかな暮らしに主に塩・砂糖・衣類・鉄・穀物・海産物・海産物を運びつけました。

秋田からは大豆と米が主です。

秋田の土崎は北前船のおかげで栄えたことができました。

海が育んだ食

湊町酒田と海のつながり

ワークショップ実施日:9月30日(水)



山形県 酒田市立浜田小学校

ワークショップで学んだこと

●今も様々なものを運ぶ酒田港が自分たちの生活にも大きく関わっていることを知り、その重要性を学んだ。
●実際に船に乗り込んで酒田港を回り北前船がどのように物を運んできたのかを体験した。
●日和田山から港を見渡し、海と川が繋がっていることを実感した。
●海、港が自分たちの生活に大きく関わっていることが分かった。
●山居倉庫、資料館で米俵を担いだり当時の資料を見たりしてここまで学んだことをさらに深く知れた。
●全国に発信できる宝ポイント/酒田から江戸までの道を整備した河村瑞賢。江戸まで運ばれた庄内のおいしい米。



商品アイデア

学んだ学習テーマを全国の人に知ってもらうための

- 北前船が運んだものの中でも、庄内で重要なのがお米なので、当時も使われていた一合拵とお米をセットにすることにしました。拵のデザインされたマークは、私たちが考えたもので、河村瑞賢さんが作った西廻り航路を通して北前船がたくさんのお米を運び、酒田にたくさん文化をもたらしてくれたことを表しています。船の周りに描かれているのは、山居倉庫と六角灯台です。どちらも酒田で有名な場所です。

海と日本 PROJECT YAMAGATA

YAMAGATA

YAMAGATA

海が育んだ食

港の昔と今 役割と変化×北前船から伝わったもの

ワークショップ実施日:8月22日(土)



新潟県 新潟県内の小学生

ワークショップで学んだこと

●地元の海が私たちの暮らしにもたらしたもの/海のおかげで魚などが食べられているから海は食料の倉庫。海があって港があって私たちの元に届けられる事がわかった。楽しい気持ちに自然としてくれる存在●日本遺産に認定された地元の海の恩恵など/海の幸だけでなく、神社の鳥居の石。港の仕事内容の違いを知らなかったのがわかった。●海の何を学んだか。どう思ったか。/身近にある海は人の手によって恵をもたらされる。海や魚を大事にしようと思った。僕たちは海と共に生きている。海が無いと生きていけない。●学習テーマについての新しい発見など/海で働く船たちの存在を知った。海はただ楽しいだけでなかった。●全国に発信できる宝ポイント/遠い場所から北前船に乗り糸魚川に伝わったバタバタ茶を発信したい!海印のバタバタ茶を開発します。



糸魚川の港を学ぼう! 船川港・能生漁港を見学しました!



能生白山神社宝物館 大切に保管されています。



海、港、北前船について学んだ内容をレポートにまとめます。



江戸時代北前船の目印となった弁天岩と灯台に登ったよ



北前船で遠くから運ばれた文化のひとつ!バタバタ茶体験。

商品 アイデア

学んだ学習テーマを
全国の人に知ってもらうための

- 「北前船調査隊海印のバタバタ茶」
- 調査した事を商品案内に入れる
- 海を渡りやってきた説明を入れてたくさんの人に知ってもらう
- 大人っぽい味なので子どもでも飲めるようにしたい
- 海の幸と一緒に飲んでも美味しいお茶にしたい



海が育んだ食

海の祭り けんか山(伏木曳山祭)と富山の昆布文化

ワークショップ実施日:10月14日(水)



富山県 高岡市立伏木小学校

ワークショップで学んだこと

●地元の海が私たちの暮らしにもたらしたもの/伏木の海が交易の玄関口となったことで、富山に昆布の食文化をもたらした。海上安全の神である伏木神社の春季大祭「伏木曳山祭り」が、今も地元のお祭りとして、地域に根付いている。●日本遺産に認定された地元の海の恩恵など、海の何を学んだか。どう思ったか。/北前船が様々な場所で交易し、伏木の町が栄えた。北前船は1度の交易で約1億円も稼ぐ宝の船だった。伏木の町の人たちは、北前船の関係者が帰ってくることを楽しみに待ち、無事に帰ってきたときは、町全体で盛大にお祝いをしていました。伏木は各地でお米を売り、北海道から昆布を仕入れ、富山に昆布の食文化をもたらしたことを知った。北前船の船主が伏木神社で海上の安全を祈るなど、伏木神社は、北前船の関係者にとって大切な場所だった。今の伏木曳山祭りも地元の大切なお祭りとして地域で愛されており、歴史を受け継いでいきたいと思った。●学習テーマについての新しい発見など/伏木神社に残る玉垣や灯籠は、かつて北前船で運ばれたことを知った。北前船の船主が伏木神社で海上での安全を祈願していた。富山県で一番食べられている昆布は羅臼昆布ということを知り驚いた。昆布締めや昆布のおにぎり、昆布巻きなど昆布を食べる富山の食文化は、北前船がもたらした文化ということを知った。昆布の食文化をみんなに伝えていきたいと思った。



伏木神社で伏木曳山祭と海の関係を学びました!



現在の港の役割や特徴を学びました!



伏木富山港を背景に全員集合!



北前船資料館へ、日本遺産・北前船の交易を学びました!



富山の昆布文化、伏木の魅力をイラストにまとめました!

商品 アイデア

学んだ学習テーマを
全国の人に知ってもらうための

- 北前船で運んだ物資をわかりやすく描いたイラストにしたい
- 昆布を使った料理を多くイラストに描いて、昆布文化を伝えたい
- 伏木曳山祭に大勢の人が来てほしいので、楽しく、かっこいいイラストにしたいと思う
- 伏木の海の魅力をわかりやすく伝えたい
- 富山の昆布料理をたくさん伝えたい



海が育んだ食

北前船主の偉業×現代の漁業と食文化
×海洋プラスチック問題

ワークショップ実施日:10月13日(火)



石川県 加賀市立橋立小学校

ワークショップで学んだこと

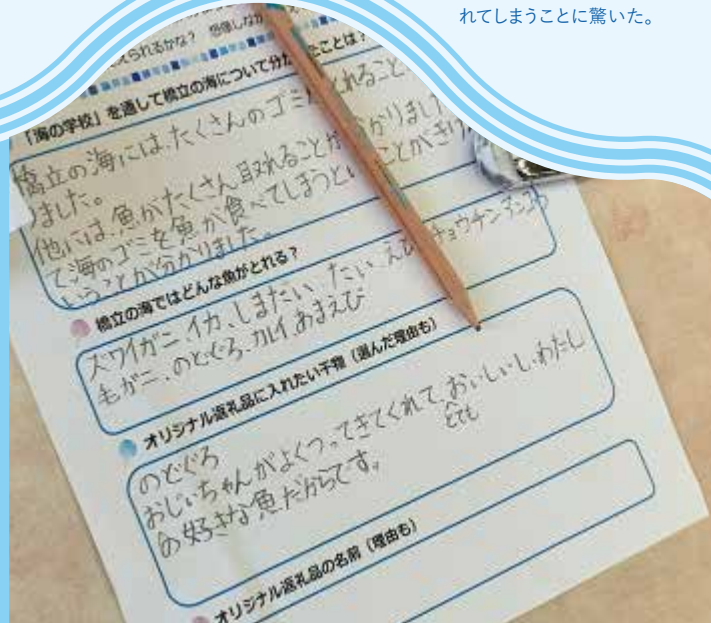
●地元の海が私たちの暮らしにもたらしたもの/加賀橋立は、かつて「日本の富豪村」と呼ばれ、豪華な北前船の船主集落が今もたくさん残っている。また、橋立の船主たちは遠く離れた北海道・小樽でも活躍し、倉庫や神社の鳥居などが残されていることに驚き、誇らしく感じた。現代の橋立では、底引き網漁がさかに行われていて、新鮮な魚介類が豊かな食文化をもたらしてくれている。●海の何を学んだか。どう思ったか。/海を通じて北海道や大阪など全国各地とのつながりができて、様々な文化も伝えられていた。底引き網漁でおいしい魚がたくさんとれているが、同時に海底にあるごみも網にかかってしまうことを知り、海洋ごみ問題が身近な海にもあることを学び、ごみのポイ捨てをしないように呼び掛けたいと思った。●学習テーマについての新しい発見など/北前船と加賀橋立について、地元で生活していても知らなかったことがたくさんあった。船から落ちて海に浮かぶように作られた船箆など、昔の人は危険な航海にそなえて様々な工夫をしていた。魚と一緒に海洋ごみも大量に取られてしまうことに驚いた。



商品アイデア

学んだ学習テーマを
全国の人に知ってもらうための

●北前船はモノだけでなく、干物やしょうゆの作り方など、食文化も各地に伝えていたので、それがわかる商品にしたい。●橋立でとれる魚はほとんどが干物に加工して全国に届けることができる。●橋立の美味しい魚を全国の人に食べてもらって、船主集落の町並みを実際に見に来てほしい。●底引き網漁で一番よくとれるカレイや、人気の甘えびなど、橋立らしい干物のセットにしたい。●美味しい魚がとれる海を守るために、ごみを捨てないようにしようと伝えたい。



海がもたらした観光資源

北前船×海×若狭塗

ワークショップ実施日:8月28日(金)



福井県 小浜市立小浜小学校

ワークショップで学んだこと

●北前船で運んだものは、北海道方面には、米、むしろ、木綿、石など。大阪方面には、ニシン、昆布などの海産物。●北前船は、若狭塗を青森に伝えるなど文化も運んだ。●小浜港に水揚げされている魚の種類や量を学び、私たちの生活に海からの恩恵があることを学んだ。●蘇洞門めぐり遊覧船で、日本海の荒波が作り上げたダイナミックな景観を見学し、エンジンがない北前船の操縦技術のすごさを知った。●若狭塗箸の箸研ぎを体験し、若狭塗に、アワビの貝が使われていることを知り、伝統工芸にも海の恩恵があることを学んだ。●若狭塗の職人が減少している現状をしり、これから若狭塗を守って行くために私たちがなにかできるかを考えた。



商品アイデア

学んだ学習テーマを
全国の人に知ってもらうための

●小浜の伝統工芸若狭塗の商品を開発して小浜の海に貢献する。海をイメージしたお皿、水筒、ピアス、メガネわく、若狭塗の服、若狭塗の文房具セット(下敷き、筆箱、消しゴムケース、定規、鉛筆、キャップ)、若狭塗のトランプ、若狭塗マスク、若狭塗のイス、若狭塗のネックレス、若狭塗コップ、若狭塗スマホケース、若狭塗ゲームのコントローラー●商品に小浜の良い所を書いた寄せ書きを入れて商品を買ってくれた人に小浜をアピールする。



海が育んだ食

海のおいしいものを届けよう from 京都・宮津

ワークショップ実施日:9月17日(木)



京都府
宮津市立栗田小学校

ワークショップで学んだこと

●魚は生き物なので命に責任を持って毎日お世話をしている。●給食で食べていたサゴシ(サワラの小さい個体)がどのような手順で捌かれているのか見る事が出来た。●サゴシが何を食べているか実際に胃を開いて見れた。他にもエラや内臓など海洋高校生に教えてもらった。●低利用資源であるサメを使ったオリジナル商品の開発経緯を教えてもらった。●ふるさと納税の返礼品は加工方法も大事だが、郵送方法を考えることも重要だと知った。



商品 アイデア

学んだ学習テーマを 全国の人に知ってもらうための

- 魚の形にすると海を感じてもらえるかもしれないね。
- これまで総合的な学習で知った地元のオリーブオイルも使ってみたいな。
- 新鮮な魚も味わってほしいけど、どうすればいいかな?冷凍?缶詰?
- 宮津でとれる海の幸を全部使った料理ができればいいね。
- 若者向けにハンバーガーやステーキを魚でできないかな。



海が育んだ食

北前船×海×賀露の干物 海がもたらした観光資源

ワークショップ実施日:9月30日(水)



鳥取県
鳥取市立久松小学校

ワークショップで学んだこと

●魚介類をはじめとする食文化、塩・砂糖や和紙、陶器などが私たちの暮らしにもたらされた。●鳥取の海は春夏秋冬によって獲れる魚が違い、ハタハタやカレイ、松葉ガニなど、旬な魚がたくさん獲れるため、食文化が発達していった。●鳥取の海はとてもきれいで、豊かなものだと感じた。そんなきれいな海を守っていかなければならないと思った。●新鮮な美味しい魚を長く保存するための干物という保存技術は、僕たちが生まれる何百年前から伝わっていたこと。そして、干物の過程で、内臓を取り出すことはとても重要だと学んだ。●賀露をはじめとする鳥取の魚は、とにかく鮮度がよく身もしっかりしていて美味しい。鳥取の海は、海洋ごみも少なく、きれいで澄んでいた。



商品 アイデア

学んだ学習テーマを 全国の人に知ってもらうための

- 脂のついたハタハタ、赤ガレイ、のどぐろなど山陰を代表する干物を全国へ!
- 鳥取を代表する松葉がにの雌「親がに」も出品
- 子供たちが1日を通して感じた鳥取の魅力をイラストで表現
- 鳥取の海の大切さ、感謝の気持ちをパッケージとポストカードに
- 新鮮な魚があり景色のいい鳥取にぜひ来てほしい。そんな私たちの宝、「鳥取の海と魚たち」をこれからも守っていこうという思いを込めて



海が育んだ食

北前船の海上交易から水産業の町浜田へ

「モノの輸送における海の重要性」と「水産業として発展した経緯」を学ぶ

ワークショップ実施日：9月18日(金)/10月19日(月)



島根県 浜田市立松原小学校

ワークショップで学んだこと

●浜田に外ノ浦があり、北前船が寄港したおかげで地元経済や文化が発展したことが分かった。●外ノ浦が2018年に日本遺産に認定されたことを知り、実際に港を見学することで、北前船の寄港地として最適であったことが分かった。●北前船の寄港地としての役割を終えた後も、浜田は水産業のまちとして海とともに発展したことが分かった。●浜田は水産加工が有名で、浜田の海にはおいしい魚がいっぱいあることが分かった。



北前船の寄港地だった外ノ浦の港を見学



浜田の水産業について学習 講師：河上さん



北前船の学習 講師：小松さん



みんな集合写真



まとめの時間



浜田の漁を紹介するために何が出来るかな?



商品 アイデア

学んだ学習テーマを
全国の人に知ってもらうための

- 缶詰のパッケージデザインを考える。
- 缶詰を使ったレシピを、缶詰パッケージにのせる。
- おすすめの商品新聞をつくり発信する。
- 魚の形をした缶詰をつくる。
- 商品のキャッチコピーを考えて、地元業者へ提供する。
- ポスターを製作し、まちに貼る。

海が育んだ食

北前船の操船技術と食文化

ワークショップ実施日：9月12日(土)



広島県 尾道市内の小学生

ワークショップで学んだこと

●北前船で尾道に運ばれたものは米、昆布、干鰯など、また尾道から全国に運ばれたものは酢、塩、石細工など。●尾道市に造船所がいくつも現存するのは、北前船の寄港地により、船を修繕する職人さんがたくさんいたことの名残り。●北前船で北海道の昆布や各地のイワシなどが運ばれてきたことが現在、海産物卸会社カタオカの仕事につながっている。●尾道水道が幅約200mの「川のような海」で、地形的にも北前船の寄港地として適していたが、潮流は複雑だった。●ダシ入りみそ汁とダシ無しみそ汁は全く味が違う。



浦に浮き輪を投げ入れて潮の流れを観察



尾道の浦と北前船について教えてもらう



北前船が母三の食文化に繋がったことを学んだ



母三の歴史を見学して造船所や歴史的建造物など町並みを見学



母三の重曹について



実際に母三を飲み比べ

商品 アイデア

学んだ学習テーマを
全国の人に知ってもらうための

- ふるさと納税返礼品の小魚加工品のパッケージで、尾道の海自慢を表現する。
- 北前船をあしらったデザインのシールを貼ることで北前船をPRする。
- コラボする商品は学校給食で食べられるなど、尾道市内ではメジャーな食品。



海が育んだ食

海がもたらした観光資源、海が生んだ「知恵・技術」

ワークショップ実施日：10月17日(土)



香川県 香川県内の小学生

ワークショップで学んだこと

●地元の海が私たちの暮らしにもたらしたもの/多度津の海が海の玄関口になったことで商業が盛んになり物資も人も集まり近代化の一因となった。●海の何を学んだか。どう思ったか。/北前船が日本中の海を往来し、交易したことで、多度津の町が栄えた。多度津の海に船で出て普段わからない潮流の様子を目で確認することができた。エンジンのない昔に遠くまで航海することの大変さと当時の船・船を操る技術に驚いた。漁師さんから直接話を聞くことができ、環境に悪い変化が海では起こっていて、獲れる魚の種類・時期も変わってきていることを聞いた。海ごみの話も聞いて未来に生き物が住みやすい海にするために自分にできる活動をしたと思った。●学習テーマについての新しい発見など/多度津町に、今も残る歴史的な街並みを見ることで海と人の関わりを知ることができた。町が栄えたことで、いち早く近代化に取り組み、地域が発展した歴史的な背景を知ることができた。潮流を体験したことで、昔の人の知恵・技術がすごいことがわかった。普段食べてる魚も気にしていなかったけど変わってきていたり、あまり店で売ってない魚もいることが知れた。



港へ北前船の勉強!



お魚さん達の初め!と手にできるかな!?



未来に綺麗な海を残すメッセージ発表



みんな瀬戸内海の魚を描いたよ。



知らないことと体験できて、友達もたくさんできたよ!

商品 アイデア

学んだ学習テーマを
全国の人に知ってもらうための

●瀬戸内海は、魚種が豊富なので旬のお魚を食べにきてもらい、今も残るその当時の町並みを見学してほしい。●瀬戸内海は、外海に比べ波も穏やかなので海のアクティビティスポットもあるので体験してほしい。●伊吹島産のいりこが、香川のうどんに使われているのでうどんを食べに来てほしい。●海ごみのせいで、生き物に悪影響がでることを漁師さんから聞いて未来の海を守るために自分たちが出来ることをみんなに伝えたいと思いました。●多度津町ふるさと納税の返礼品ののし紙として全国に発信します。



海が育んだ食

北前船と玉島の海の歴史について

ワークショップ実施日：9月11日(金)/10月1日(木)



岡山県 倉敷市立玉島小学校

ワークショップで学んだこと

●地元の海が私たちの暮らしにもたらしたもの/北前船が立ち寄る港であったため、全国との交易が盛んとなり、「西の浪速(なにわ)」と呼ばれるほどに町は発展していった。その中でも「綿」「茶」「菓子」「書道」の産業や文化が発展し、今でも繊維産業を支えていたり、茶葉子の文化なども現在でも地元で有名なものの一つであったり、自分たちの暮らしには欠かせないものである。●日本遺産に認定された地元の海の恩恵など/発展した文化の中でも特筆されるのは茶菓子文化で、当時は茶室が400棟もあったと言われている。その伝統は現在にも引き継がれており、40室ほど現存している茶室は、歴史的に大切なものとなっている。●海の何を学んだか。どう思ったか。/自分たちが暮らす玉島の地は元々は海で、干拓により土地を広げ、海とつながり港町として発展していった。将来に渡りこの美しい海を守り、次の世代に引き継いでいきたい。●学習テーマについての新しい発見など/玉島の海の干拓を行った藩主の水谷勝隆公の存在。水谷氏は干拓工事の成功祈願、また北前船の船員の安全祈願として羽黒神社という玉島では歴史のある神社を建立したということが分かった。●全国に発信できる宝ポイント/北前船の寄港により発展した茶菓子文化について、現在でも老舗の名店が存在しているので、全国にその味はもちろんのこと、歴史の風景も併せて発信していきたい。



玉島の和菓子を試食!美味しかったです!



地元の漁業について貴重な話を聞きました!



10分の1の大きさで精巧に造られた「千石船」の模型



港町ならではのモニュメントを発見!

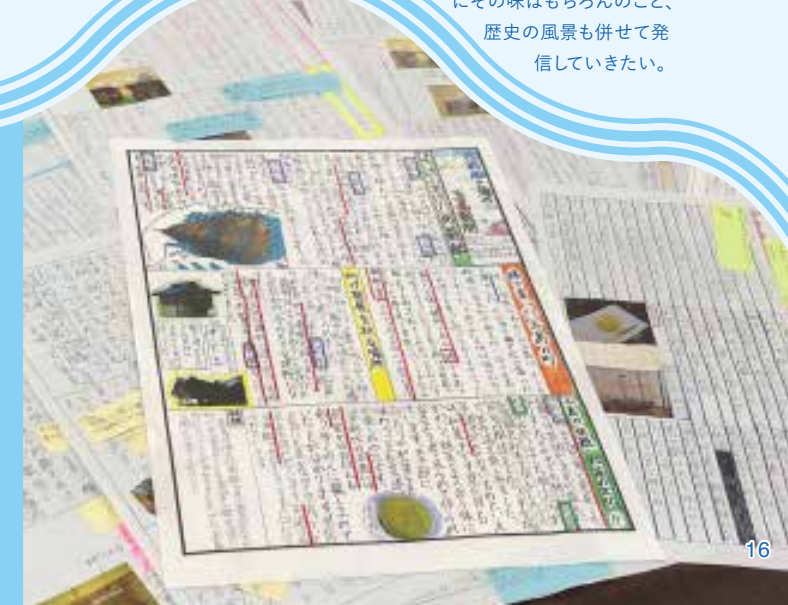


玉島港から地元の海を一瞥!

商品 アイデア

学んだ学習テーマを
全国の人に知ってもらうための

●北前船の寄港により、発展を遂げてきた玉島の茶菓子文化を全国の皆さんに知ってもらいたい。
●茶菓子文化の体験授業でご協力いただいた、老舗和菓子屋「松涛園」さんの商品をふるさと納税品として出品したい。
●商品の中に自分たちで作成した手作りの地元の歴史新聞を同封し、全国の人々に地元玉島のお菓子の美味しさと歴史と一緒に知ってもらいたい。



海が育んだ食

室津1300年の海と人との関わり

ワークショップ実施日：9月5日(土)/9月12日(土)/11月8日(日)



兵庫県 たつの市内の小学生

ワークショップで学んだこと

●北前船が室津に運んだものは？
/皮革、米、にしん、昆布、干鰯●北前船が
室津から全国に運んだものは？/革製品、播州織物、いり
こ等の海産物、塩、酒、木綿。●文化・くらしの面で北前船がもたら
したものは？●食べ物、文化など様々なものが輸入され、室津
の人々の生活が豊かになった。●嶋屋のような大きな廻船問屋
が全国各地との商売を通して、西播磨の発展をもたらした。特に
干鰯がもたらされたことで、西播磨の農業を豊かにした。●日本
遺産に認定された地元の海の恩恵●室津は周りが山に囲ま
れており、風を防げる地形なので、波や潮の影響も受けず穏や
かなため、昔から船が泊まりやすい良い港だった。だから北前
船も来て、室津を豊かにした。

キャッチコピーまで考え、どれも素晴らしい商品案でした！



商品 アイデア

学んだ学習テーマを
全国の人に知ってもらうための

●ゴミを川や海に捨てない。海岸を掃除する。●地元の魚を食べて、漁師さんに感謝する。●漁師さんが魚を獲るだけでなく、地域の人で海の掃除をしたり、海底を耕して魚を住みやすくする努力をしていることを理解する。漁業に関する仕事につく。●地元の海について知り、沢山の人も室津の海を知ってもらえるように、室津の海の良さをPRする。その方法として「播州サーモン」をふるさと納税商品で出品し、それを使ったオリジナルメニュー「サーモンブラン」と「播州サーモンフレック」を全国に発信する。



海が育んだ食

海がもたらした大阪の文化

ワークショップ実施日：10月24日(土)



大阪府 泉佐野市立第三小学校

ワークショップで学んだこと

●地元大阪の海は「北前船」の寄
港地であり、北前船によりこんぶ、にしん
など多くの食料品が輸入、輸出された。私たち大阪の食文
化を支えている「昆布だし文化」を学び、「海の恩恵」を感じ
る事ができた。●地元には船主が多く存在し、食野家や唐
金家などの豪商を輩出し日本の食文化・発展に大きく貢献
した場所であること。●大阪の昆布だし文化をもっと沢山
の方に知っていただき、そして次世代につなげていく為に、
ペットボトル、ごみをポイ捨てせず、清掃活動などを通じて、
今まで以上に海を大切にすること。



商品 アイデア

学んだ学習テーマを
全国の人に知ってもらうための

●学習した「北前船」や「泉タコやがっちょ」など大阪湾に生息する生き物のイラストを泉佐野市の子どもたちが制作。
●そのイラストを地元の名産品「泉州タオル」や「株式会社向新の菓子」の包装パッケージにして全国へ発信する。
●コラボする泉州タオルは海の環境に配慮した原料で作られる「大阪グリーンタオル生産倶楽部」の基準を満たした製品を用いる。

